

# 博物館における「関東大震災100年展」の展示評論

## －小田原市郷土文化館を例に－

初澤敏生（福島大）

要旨：災害文化の伝承にあたり、災害の記憶の伝承は不可欠である。そのために博物館の果たす役割は大きい。しかし博物館の展示評論は十分に行われていない。本報告では小田原市郷土文化館の企画展「関東大震災100年展」の展示評論を試みる。

### 研究目的と既存研究

災害文化は持続的な地域の記憶の継承のないところで形成されない（山本唯人：2006）。博物館における調査・研究・展示・教育はそのために重要な役割を果たす。しかし、博物館の展示や記録についてはこれまで十分な批評がなされてこなかったのではないだろうか。その中で、関東大震災に関する展示に関しては、比較的多くの評論がなされている。東京都慰霊堂と復興記念館については、山本唯人（2006）と高野（2010）がその成立過程や収蔵物の収集過程などについて検討を加えている。関東大震災については周年行事的な企画展が行われてきたため、2013年の90周年にあたり、青木（2014）は横浜市の博物館の連携展示について解説し、広域的視点の重要性を指摘した。これを受け、2023年には広域的連携事業が行われた。

2023年は関東大震災100年にあたるため、各地の博物館が企画展を行った。これらについては吉田ほか（2024）がその全体像を概観し、聖谷（2024）と高田ほか（2024）は国立科学博物館で開催された企画展の概要とそこにおいて行われたデジタルアーカイブの実践について報告している。また、山本あづさ（2024）は埼玉県岡市生涯学習センター歴史資料展示室で行われた展示内容について紹介している。

### 小田原市郷土文化館の展示

小田原市郷土文化館は小田原市立の郷土博物館である。当館では2023年8月26日から10月29日まで企画展「100年の記憶と記録－小田原の関東大震災」展が開催された。本展は以下の5部構成となっている。

- 第1章 大正関東大震災の発生
- 第2章 100年の記憶と記録
- 第3章 震災からの復興
- 第4章 震災を伝える伝承碑
- 第5章 いつか来る地震に備えて

以下、順に検討する。

「第1章 大正関東大震災の発生」では、最初に関東大震災の概要を示す解説パネルを展示し、続いて小田原の災害史の年表と解説のパネル、嘉永6年地震の記録冊子と当時の瓦版、江戸時代に発生した全国の災害を俯瞰して示した「聖代要過齋寿恵」、世界の主な災害を示した「地震火災万国図説」が展示された。

続いて関東大震災に関する解説と展示に移る。まず足柄下郡の地震被害についてパネル2枚と解説で示した後、小田原と熱海の震災地応急測図原図（複製）、「大正震災志（上・下）」「同附図」「大正震災志写真類」「大震災記念写真類」が展示された。ただし、応急測図原図以外は冊子が置かれているだけで、その内容は示されていない。具体的な写真は第2章で示される。

「第2章 100年前の記憶と記録」では、大量の写真を用いて震災時の状況を示している。簡単な解説パネルの次に箱根印刷が発行した「小田原箱根震災記念帳」とその写真を撮るために使用したガラス乾板の写実、松井十堂が発行した「小田原町大震災実況」（8枚組絵ハガキ）が展示された。

続いて「100年前の記録」として多数の写真が展示された。最初の部分では大正7年に新築した小西薬局の上様式の写実と落成式の写実、さらに震災によって倒壊した後の写実が示され、地震被害の大きさが理解できる。

次に火災によって焼失した範囲の地図が示され、被災した市中心部の写真が展示された。なお、これと類似する展示として「瀬戸美濃産色絵皿」と「火災で節着したガラス製品」の展示がある。この展示は展示物の性格が異なるためか、離れた位置に展示されたが、いずれも被災した商品を廃棄した場所を発掘して得られたものであり、写真と合わせて展示する方が理解を深められたのではないだろうか。

次に展示されたのは、一藤木家アルバムである。これはアマチュアカメラマンである一藤木善十郎氏が撮影した写真を集めたもので、「倒壊したりゾート旅館」などが撮影されている。

次に小田原城址の被害状況が示され、お堀に転落する桜並木や崩れた石垣などの写真が展示された。さらに付近にあった小田原高等女学校の生徒たちが崩れた石垣の上に集合している写真や早川の河原で露店授業を受ける様子の写真なども展示された。

交通機関の被害状況についても、多くの写真が展示された。特に落下した酒匂川の鉄橋や小田原駅、早川駅、鴨宮駅の被害状況などが示された。

また、小暮次郎氏の水彩画も展示された。小暮氏は明治40年に小田原に生まれ、16歳で被災した。小暮氏は震災から60年近く経過後の昭和50年代に関東大震災の被害の様子を描いた。今回の展示では、「第一小学校の被災」「うしろろ被災」「燃える小田原高等女学校」など12枚の絵画が展示された。この他、徳永柳洲氏の絵画（いずれも複製）3点も展示された。

次に、「100年の記憶」と題し、写真以外の資料の展示が行われた。ここでは1枚の導入パネルに続き、小田原警察署「関東大震災被害報告」、尾崎一雄「あの日 この日」、片岡永左衛門著・小田原史談会編「片岡日記 大正編」など、主に文章による記録がパネル化され、展示された。これらの多くは印刷物として出版されたもので、多くの文獻が収集されている。

また、「掘り起こされた記憶」と題し、先に紹介した陶器とガラス製品が展示された。前者は「筋違橋町遺跡第II地点」、後者は「本町遺跡第VIII地点」の発掘物である。それぞれの遺跡についても説明パネルが設置され、解説が加えられた。

さらに、第2章の最後の部分で「根府川地区の土砂災害」として旧片浦村根府川地区の土砂災害が取り上げられた。この土砂災害は熱海線根府川駅側の崖が地滑りを起こし、駅と列車を海中に転落させたものと、白糸川上流の大洞山の一部が山体崩落を引き起こし、白糸川を流れ下って根府川聚落を飲み込んだ山津波、熱海線東ノ目山トンネル付近の土砂崩れ、の3つの災害から構成される。展示では説明パネルと説明地図（各1枚）、写真20枚などが展示された。

「第3章 震災からの復興」では、様々な事象から地域の復興をとらえている。まず「震災復興と小田原競馬場」として、パネルを用いて小田原に建設された競馬場について解説し、次いで村山大仙による社会事業が取り上げられた。ここではまた、小田原町の復興の動向について、仮設バラックの建設の様子を映した写真や国道一号線改良工事絵巻はがき（8枚組）などが展示された。

次に松原神社の復興について説明パネルと写真で示され、さらに「江嶋の復興と足柄茶」として茶・紙商の老舗である江嶋の復興について写真等が展示された。足柄茶は旧足柄上郡清水村が関東大震災で被災し、村の復興をかけた静岡県から導入したものである。昭和4年の記録によれば、清水村の茶の生産量の過半を江嶋が扱っていた。

「第4章 震災を伝える伝承碑」では全体の解説パネル1枚と石碑の写真+解説パネル11枚、それに伝承碑の分布図が示され、「第5章 いつか来る地震に備えて」の解説パネルで展示がまとめられた。

### 展示評論

以上、小田原市郷土文化館における関東大震災展示の概要を示した。全体で小展示室2つ分の展示であり、それほど大規模なものではないが、内容は充実している特に多数展示された写真は小田原市立図書館が所蔵するものが多く、中には被災した小田原城や町中の状況、倒壊したうしろろ、一藤木家アルバムなど、地域史をたどる上で貴重な資料が少なからず含まれる。小暮二郎氏の絵画なども非常に貴重な資料である。小田原市郷土文化館がこれらの資料を展示できたこと背景として、長期間にわたる資料収集活動が指摘できる。

小田原市は関東大震災の震源地に近かったため、震度6以上の揺れに襲われたものと推測されている。本震・余震により多くの建物が倒壊し、市内13か所から発生した火災によって市街地の約3分の2が焼失した。また、海岸部は押し寄せた津波によって壊滅的な被害を受け、白糸川沿いでは大規模な山津波が発生して根府川聚落を飲み込んだ。

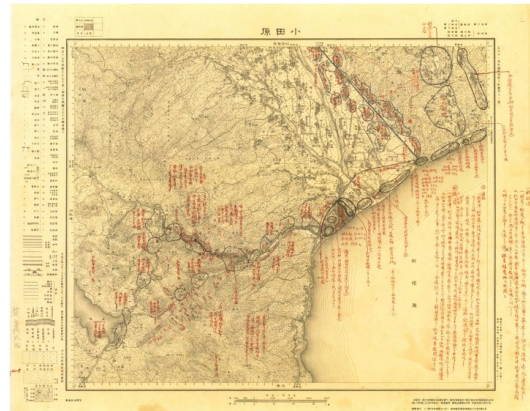
小田原市は甚大な被害を受けたため、被災状況に関する調査・研究は活発に行われていた。また、研究にあたる学芸員は郷土文化館に配置された4名の他に、11名が他施設で業務に当たっている。人口20万人規模の地方都市としては、15名の学芸員は非常に手厚い配置と言えよう。学芸員の専門分野は考古8名、歴史5名、美術2名と考古学が中心になっている。これは文化財行政上やむを得ない配置であるが、この結果、震災遺物の考古学的研究と、考古学的研究とその成果の展示を得たとと言える。充実した人員と長期にわたる調査・研究、豊富なオリジナル資料の所蔵が完成度の高い展示を生み出したと評価できる。

### 参考文献

- 青木祐介（2014）：関東大震災90周年連携展示の試み 首都圏史研究4 pp.56-60
- 高田百合奈ほか（2024）：過去と今をつなぐデジタルアーカイブ「企業からみる関東大震災」の実展示 デジタルアーカイブ学会誌8-1 pp.6-10
- 高野宏康（2010）：「震災の記憶」の變遷と展示 年報非文字資料研究6 pp.37-75
- 室谷智子（2024）：博物館で災害をどう伝え、どう残すか デジタルアーカイブ学会誌8-1 pp.11-14
- 山本唯人（2006）：関東大震災の記念物・資料保存活動と「復興記念館」 社会学雑誌23 pp.3-16
- 山本あづさ（2024）：関東大震災を検証する。残された記録から 白岡市生涯学習センター歴史資料展示室 紀要6 pp.55-64
- 吉田律人ほか（2024）：博物館の関東大震災100年 横浜開港資料館紀要39 pp.1-31



倒壊した小田原駅とちんりう



震災地応急測図原図（小田原）



うしろろ被災



燃える小田原高等女学校

※写真類は小田原市郷土文化館 Web ページより引用。  
<https://www.city.odawara.kanagawa.jp/public-facilities/kyodo/topics/exhibition-2023.html>